



石巻発、寄付車でつくるやさしい未来
日本カーシェアリング協会
Japan Car Sharing Association

ANNUAL REPORT 2025

2025.1-2025.12

車の寄付をあたりまえに、
支え合う社会へ。



この奇跡を、社会の仕組みに

2025年は、私たちにとって「もう一皮むけなければならない」と突きつけられた1年でした。

2024年の能登半島地震では、約500台規模の支援車両を活用し、一定規模の対応を行うことができ、ひとつの自信を得ました。しかし、2025年の九州豪雨では、1日で約500件もの申し込みが殺到し、その自信は見事に打ち砕かれました。今回は車を失った方々への長期貸し出しが中心となり、圧倒的な台数が必要となりましたが、私たちはその期待に十分応えることができませんでした。精一杯呼びかけましたが、思うように車両を集めることができませんでした。このままでは、将来の大規模災害に対応できない。その現実を痛感した1年でした。



気がつけば、東日本大震災から15年が経ちました。私の師である山田パウ氏が阪神・淡路大震災後に7年半支援活動に取り組まれた姿に憧れ、「せめて肩を並べられるように」と思い活動をしてきました。気づけば、その倍の年月が流れていました。車を運転すらできなかった私が、1台の車を手に入れ、石巻の仮設住宅へ届けるまでに半年かかったところから始まった取り組みは、今では全国各地へ支援に向かう体制へと広がりました。スタッフ、支部、連携させていただく企業・団体の皆さまが増え、社会の中での責任も大きくなっています。私たちは各地で「どうやってやりくりしているのか」と尋ねられます。この取り組みは、多くの方々の支えとスタッフの工夫と行動力によって、絶妙な形で成立してきました。いわば、多くの方の思いと行動が積み重なって形づくられてきた「奇跡の仕組み」です。これまでこの活動を支えてくださった皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、その仕組みを支える根幹にあるのが「車の寄付」です。日本では年間約1,000万台の車が手放されています。そのうちのわずか0.1%、1,000人に1人が寄付を選択すれば、1万台の車が社会を支える力になります。私たちは、東日本大震災規模の災害が起きても対応できる体制をつくることを目標に掲げてきました。非現実的だと思われるその構想も、車の寄付という選択が広がれば実現可能です。災害支援だけではなく、高齢者の移動支援、生活再建支援、NPOや地域活動の後押しなど、車は人と地域を再生させる力を持っています。

この仕組みを、力技の延長で終わらせてはならない。次のステップは、このモデルを制度として社会に実装する段階だと考えています。活動を始めたころから、石巻から文化をつくり、社会を変えたいと言い続けてきました。実績もなかったころは、くすくす笑われることもありましたが。しかし今、その構想は現実味を帯びています。ここで改めて宣言します。もう笑われたりはしないはずですよ。

車の寄付があたりまえの文化へ。

そして、災害時に車で困らない社会へ。

その実現に向け、さらに挑戦を続けてまいります。

どうかこの挑戦に、引き続きお力をお貸しください。よろしくお願い申し上げます。

2026年 3月
 一般社団法人日本カーシェアリング協会
 代表理事 吉澤武彦



活動開始から15年を機に、協会のビジョン(目指す社会)を刷新しました

新ビジョン

車の寄付をあたりまえに、支え合う社会へ。

2030年に4,000台規模の支援対応を行うための礎を築きます

ビジョン達成のための2026-2028 3年中期計画

コミュニティ・カーシェアリング
支え合いの地域づくり

ソーシャル・カーサポート
平時の車の貸出支援

モビリティ・レジリエンス
災害支援事業

29

50

コミュニティ・カーシェアリング実施地域数

345

750

カーリース貸出台数(年間)

650

2,000

大規模災害時の貸出車両台数

車の寄付台数(年間)

300

1,200

支部増設に関して



事業推進部 部長
石渡 賢大

石巻の支援ひな型を全国に。
持続可能な運営体制構築を進めます。

東日本大震災の被災地・石巻で生まれた「寄付車による支え合い」の仕組みは、今、全国各地へと広がっています。私たちは、災害時にいち早く駆けつけ、平時には地域の移動課題に寄り添うため、戦略的な支部設置を進めています。

私たちが何より重視しているのは、これらの支部が地域の中で自立し、持続的に支援を届け続けられる「持続可能な体制」を築くことです。車の利用者が増えることは、単なる数字の向上ではなく、地域に潜む移動の「お困りごと」の解決が着実に進んでいる証です。1人でも多くの利用者へ車を届けることで、地域全体の安心を支えていきます。

あわせて、支援の質を高めるため、地域内で寄せられた寄付車をその地域で活用する「寄付車の地産地消」を加速させます。支部がある県で車の寄付が集まるよう、普及活動を支部のメンバーとともに進めてまいります。そして、支援車両を安全に管理し災害時に即応できる「ヤード（駐車場）」の設置も全国で開始し、災害時の対応力を向上させていきます。



石巻本部

2026年1月、石川・宮崎支部が開所。
被災の経験を未来の備えへ。

■石川支部：2024年の能登半島地震直後、私たちは最大9カ所の臨時拠点を設け、無償貸出を行ってきました。2年間にわたる緊急支援を終え、2026年1月15日に、活動を七尾市に集約し「石川支部」として常設拠点化します。

石巻では東日本大震災の際、仮設住宅から最後の入居者が退去されるまで、発災から7年かかりました。仮設住宅からの引っ越しのために長く軽トラックの貸出要請がありました。

能登ではどうなるかまだわかりませんが、新たに設置する七尾市内の拠点では被災された方の無料貸出支援をしばらくの間続けていくことにしています。そして、平時の活動を県内で広げ石巻や他の支部でやってきたような車の助け合いの活動を広げてまいります。石川支部は、被災された方々の生活再建に最後まで寄り添うとともに、寄付車文化を北陸に根付かせる拠点となります。



■宮崎支部：2026年1月30日、延岡市に「宮崎支部」が誕生します。これまでは佐賀などから車両を運んでいましたが、これからは「宮崎で集めた車で、宮崎と近隣県を守る」体制へと転換します。2年連続で宮崎で災害支援を実施しています。

雨風の災害の他、迫りくる南海トラフ地震への備えは待たなしです。平時から地域の方々と「車の寄付」を通じて繋がり、活用を広げることこそが最大の備えになります。

延岡市とは災害時の連携協定を締結しています。佐賀に次ぐ第2の拠点、東九州の安心を守る「レジリエンスの要」として、着実に歩みを進めていきます。



秋田支部



栃木支部



静岡支部



佐賀支部



石川支部



宮崎支部

災害対応



災害対応数
34 件



総貸出件数
10,413 件

ご寄付



活用車両
1,685 台



リサイクル車両
599 台



支援金
156,961,729 円

コミュニティ・カーシェアリング (CCS) /
ソーシャルカーサポート (SCS)



CCS実施
地域数
29 地域



SCS支援リース
累計件数
788 件

拠点数



活動拠点
5 拠点

スタッフ数



スタッフ
42 名

※2026年1月に石川・宮崎に支部が設置され7拠点になりました。

パートナーシップ



モビリティ・レジリエンス・アライアンス

※災害支援のためのネットワーク

自治体
27 自治体

企業・団体
50 社 (団体)

車の寄付についての連携

※所有する車両・パーツを、社会貢献の一環として寄付し、
車の寄付を通して社会をよくするネットワーク

車の寄付パートナー
48 件

提携リサイクル業者
21 業者

ボランティア



架け橋
ドライバー
1,467 名



災害対応
人材BANK
147 名

東日本大震災から15年 振り返り年表

●2011年3月11日 東日本大震災発生



●2011年4月 (故 山田和尚氏) からの提案を受け、実施を決意

●2011年5月

1台目の車を京都府の会社より
寄付いただく



●2011年7月 法人設立

仮設万石浦団地にて
カーシェアリングのテスト
運行開始



●2011年10月

公的機関から全ての許可が下り、
本格運用開始



●2012年2月

石巻市より
「カーシェアリング
コミュニティ・サポート
センター」の運営を受託



●2013年8月

三菱自動車工業株式会社より
電気自動車「i-MiEV」を寄贈
いただく
同年より電気自動車を活用し
た防災訓練を開始



●2013年11月

自家用自動車有償貸渡業の
許可を受け、レンタカー事業
を開始



●2014年3月

埼玉県秩父市豪雪被害で災害
対応を開始

●2015年6月

復興公営住宅への
『コミュニティ・
カーシェアリング』
導入開始



●2016年7月

石巻市・独立行政法人都市再生機構（UR）と三者協定を締結し、UR建設の復興公営住宅へ『コミュニティ・カーシェアリング』導入を進める



●2016年10月

第1回『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウムin石巻開催

●2016年11月

ソーシャル・カーリース事業開始、同年東京海上日動火災保険株式会社と保険代理店契約を締結

●2017年11月

防潮堤工事に伴い、事務所移転（福島県に建設された木造仮設住宅を再利用）



●2018年7月

第2回『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウムin石巻開催

●2018年8月

石巻市と『災害時の相互応援に関する協定』を締結

●2018年10月

石巻市以外で『コミュニティ・カーシェアリング』の導入が開始。（岡山県美作市上山集落・岡山県岡山市東区東平島地区）

●2019年1月

岡山県・日本自動車販売協会連合会岡山県支部・岡山県軽自動車協会と『災害時における被災者等の移動手段の確保に関する協定書』締結



●2019年

6月 リサイクル寄付開始

7月 滋賀県大津市と「コミュニティ・カーシェアリングの普及促進に関する連携協定」を締結

●2020年

2月 災害時返却カーリース開始

5月

佐賀県と佐賀未来創造基金と「一般社団法人日本カーシェアリング協会の佐賀県への進出に関する協定」を締結



●2020年

6月 佐賀県武雄市に九州支部を設立



●2021年

7月 石巻市と包括連携協定締結



●2022年

7月 第1回クルマ・社会・パートナーシップ大賞
グッドパートナーシップ事業選定
自動車ユーザー連携賞受賞



●2023年

5月 栃木支部、静岡支部オープン



10月 活用寄付1000台達成



●2024年

5月 秋田支部オープン

●2025年

無償貸出累計1万台突破

●2026年1月

石川支部、
宮崎支部オープン



3月11日 東日本大震災から15年

3月26日 事務所増築完成



九州豪雨支援

早朝の豪雨、備える時間が無く、甚大な被害に。車の支援をお届けしました。



災害サポートレンタカー

被災された方・支援活動を行う団体へ一定期間車を無償で貸し出す支援

- 貨物車貸出：3日単位・何度でも利用可
- 乗用車貸出：2週間（～10月27日）
⇒1カ月単位・延長可（10月28日～）
- 支援期間：2025年8月17日～2025年12月25日

甚大な車の被害。過去最多の申し込み件数を記録。

2025年8月8日から降り続いた大雨により、鹿児島・熊本・福岡で広範囲に浸水被害が発生しました。夜間から早朝にかけて急速に水位が上昇したことで、多くの車両が避難の機会を失い、深刻な浸水被害を受けました。

熊本で支援申し込みを開始した初日には、1日で497件の申し込みが殺到。これは1日の申し込み件数として過去最多であり、能登半島地震支援時の約5倍にあたります。

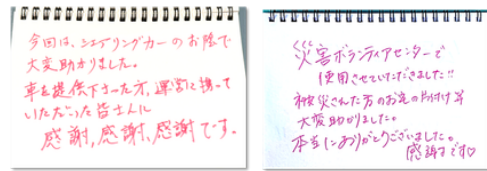
当協会は能登半島での支援も継続しており、すぐに確保できる車両は限られていました。想定を大きく上回る需要は、現在の体制の限界を浮き彫りにしました。それでも全国から車両を集め、貸出期間を短縮するなど運用を調整し、できる限り多くの方に車を届けることができました。

本災害対応では、延べ232台を活用し、804件の貸出支援を実施しました。



地元自治体・団体と連携し、5つの支援拠点で対応。上天草市と八代市は自治体が運営。

当協会では、発災当日から現地（霧島市）入りし対応を開始しました。今回の災害では被害が広範囲にわたったため、対応するためには複数の支援拠点が必要となりました。私たちは2024年の能登半島での支援活動で多拠点での支援体制を経験していたこともあり、そのノウハウを生かし多拠点展開を進めました。鹿児島県霧島市、熊本県熊本市、上天草市、八代市、福岡県福津市に拠点を設置し、支援体制を整えました。上天草市と八代市はそれぞれの自治体が、福津市は地元の団体が拠点の運営に協力いただきました。



▷九州豪雨にてお車を被災された方々へ、当協会の支援車両を貸出した際のインタビュー動画をご覧いただけます。



九州豪雨対応支援拠点

■熊本市(熊本県)
期間 8月25日～12月25日
拠点 西部公民館(西区役所旧館)
場所協力 熊本市役所

■福津市(福岡県)
期間 9月10日～12月25日
拠点 福津市未来共創センター
運営協力 NPO法人九州コミュニティ研究所

■八代市(熊本県)
期間 8月25日～12月25日
拠点 八代市役所
運営協力 八代市役所



■霧島市(鹿児島県)
期間 8月17日～12月25日
拠点 国分シビックセンター1F
場所協力 霧島市役所

■上天草市(熊本県)
期間 8月29日～12月25日
拠点 上天草市役所 松島庁舎
運営協力 上天草市役所





「災害時返却カーリース」で29台の車が集結。 自治体の公用車・ボラセンの活動車の不足も補う。

今回の車両調達で大きな役割を果たしたのが「災害時返却カーリース」でした。これは、平時は低額で活用いただき、災害時には支援用として貸し出すために返却いただくことを条件としたカーリースプランです。2025年は新たに自治体プラン、社協プランという派生プランを本格始動させ、自治体の公用車不足や災害ボランティアセンターの活動車不足に対応できるよう準備を進めていました。（詳細は13P）

そして、九州豪雨支援では、九州地区を中心に本リース利用者の方々に返却いただき集まった車は29台。そのうち10台は自治体プラン・社協プラン利用組織から返却されたもので、被災自治体や災害ボランティアセンターで活用されました。車を届けられた方々からは「本当に助かった」と喜びの言葉をたくさんいただきました。

▷災害時返却カーリース社協プランを返却いただいた方、返却車両を支援車両として利用いただいた方のインタビュー動画をご覧ください。



災害時返却カーリースの活用事例



のべ166名の架け橋ドライバーさんがリレー方式で 全国から車を搬送。

支援車両の不足が深刻化する中、全国各地から被災地へ車を運ぶ必要がありました。しかし、長距離搬送はボランティアドライバーの負担が大きく、協力者の確保が課題となっていました。

そこで、兵庫県姫路市の橋本自動車様・福岡県福津市の支援拠点を運営いただいた九州コミュニティ研究所様に中継地点として協力いただけることになり、区間を分担する「リレー方式」を導入しました。これにより、1人あたりの移動距離と負担を軽減し、参加ハードルを下げることができました。その結果、九州豪雨支援ではのべ166名（12月31日時点）の架け橋ドライバーの協力を得て、安定的かつ効率的な車両搬送体制を構築することができました。



姫路で中継地点としてご協力いただいた橋本自動車様

車を求めて「九州行脚」、九州6県で記者会見を実施。

1ヵ月間で2,000件を超える申し込みが入り、初動で準備できた車両は50台のみでした。そういった中、支援する車両を集めるために九州6県の県庁舎で記者会見を実施しました。その結果、企業・団体に加え、個人の方からも寄付の申し出が相次ぎました。「長年乗っていたが買替のタイミングで寄付して被災された方々のお役に立てるのなら」と自走で運んできていただいた方もおり、支援車両の確保につながりました。



九州6県をめぐり、各県庁で記者会見する代表の吉澤

- 8月18日 熊本県
- ↓
- 8月19日 鹿児島県
- ↓
- 8月21日 長崎県・佐賀県
- ↓
- 8月22日 大分県・宮崎県
- ↓
- 9月3日 福岡県

九州各県へ協力の
お願いに赴いた日程

自動車関連企業・団体の皆様に支えられました。

支援車両が不足する中、迅速にご協力くださったのが自動車関連企業・団体・販売会社の皆様でした。自動車販売会社の業界団体である日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、中古自動車販売商工組合・中古自動車販売協会（JU）の各県支部の皆様、ならびにトヨタ自動車株式会社様が会員販売会社へ協力を呼びかけてくださいました。また、自動車販売会社各社およびアライアンスメンバーである株式会社オートバックスセブン様からも車両をご寄付いただきました。寄付に伴う登録、整備、運搬等の実務面でも多大なご支援をいただき、合計86台の車両を確保することができました。

さらに、活動に必要な物資面でも多くの企業にご協賛いただきました。タイヤ（ハンコックタイヤジャパン様）、カーケア用品（ソフト99コーポレーション様、ハンディ・クラウン様）、車両運搬時に使用するパープルセイバー（エーモン様）、拠点運営に必要なポケットWi-Fi（ITダート様）など、現場を支える多様な物資を無償で協賛いただきました。

加えて、協賛やクラウドファンディングを通じた資金面での支援もあり、車両確保から運用までの体制を支えていただきました。こうした自動車関連企業・団体の皆様との連携が、今回の支援を大きく前進させる原動力となりました。



助成金・寄付が活動を支えてくださいました

本活動の財源は、民間の助成金およびご寄付が中心となっています。多くの皆様からのご支援により、本事業の実施が可能となりました。心より感謝申し上げます。

▷本事業へ助成いただいた
助成団体の皆様



Yahoo!
ネット募金

災害時に車で困らない仕組みをつくる

モビリティ・レジリエンス

能登での支援活動を継続。
過去最多となる8つの災害に対応しました。

昨年の能登半島地震および豪雨災害では、住宅の公費解体が長期化し、片づけや引っ越しの支援ニーズが継続しました。毎月100件を超える問い合わせが寄せられ、支援は12月25日まで続けました。2年間で延べ6,228件の貸し出しを行いました。

そして、貸し出し開始からちょうど2年となる2026年1月15日、石川支部として常設拠点を設置しました。現地に根ざした長期支援と、寄付車を活用した支え合いの仕組みづくりを本格的に進めていきます。

2025年は能登での継続支援を含め、全国で8つの災害に対応しました。対応件数は過去最多となりましたが、限られたリソースの中で十分に答えられない場面もありました。年々増える災害に対して、更なる備えの必要性を実感した一年でした。



2025年に対応した災害支援

対応した災害の数

貸し出し延べ件数

8つ
14拠点

2,107件



8月 5年連続水害 豪雨被害 (秋田/仙北)

8月と9月立て続けに豪雨が発生。仙北市災害ボランティアセンターへ軽トラック2台を貸し出しました。

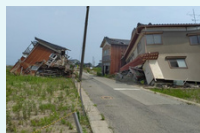
期間 2025年8月29日～2025年12月25日
活用車両台数 2台 貸し出件数 2件



《継続支援》2024年1月能登半島地震・豪雨支援 (石川/七尾・珠洲・輪島・能登)

2024年1月から始めた支援は約2年の節目を迎え、12月25日に支援終了の区切りを迎えました。広域支援を終え、石川支部で災害サポートレンタカーは継続します。

期間 2024年1月15日～2025年12月25日
活用車両台数 360台 2025年貸し出件数 1,248件



12月 青森県東方沖地震 (青森/八戸)

八戸市で震度6強を観測する地震が発生し、住宅被害などがありました。八戸市災害ボランティアセンターに軽自動車を貸し出しました。

期間 2026年1月9日～2026年2月1日
活用車両台数 2台 貸し出件数 2件



※2025年に調査・調整し、2026年に貸し出しを実施



10月 台風15号による過去最大級の竜巻被害 (静岡/牧之原)

複数の竜巻の発生により多くの家屋、車両への爪痕を残しました。牧之原市社会福祉協議会の一室をお借りし、支援活動を行いました。

期間 2025年9月9日～2025年12月25日
活用車両台数 14台 貸し出件数 38件



2月 大船渡市山林火災 (岩手/大船渡)

2月から続いた山林火災の復旧支援活動を行う地元団体へ車両1台を貸し出しました。

期間 2026年4月9日～2026年7月31日
活用車両台数 1台 貸し出件数 1件



10月 台風22号・23号の連続被害 (東京/八丈島)

台風22号と台風23号が立て続けに襲い、甚大な被害がありました。八丈町災害ボランティアセンターへ3台のトラックを貸し出しました。

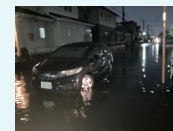
期間 2025年12月6日～2026年3月31日予定
活用車両台数 3台 貸し出件数 3件



10月 大雨で冠水地域が多数発生 (宮城/宮城野区他)

仙台市、塩釜市、多賀城市で冠水による車両の水没被害が発生しました。石巻本部で貸し出しを実施しました。JU宮城様より5台の車両の寄付を頂きました。

期間 2025年10月8日～2026年1月31日
活用車両台数 8台 貸し出件数 9件



各自治体、企業団体との平時の備えに前進 モビリティ・レジリエンス・アライアンス

新規に締結した災害連携協定



6自治体と災害連携協定を締結。全国市長会との協定へ発展。

2025年は、災害時の迅速な対応に向けた自治体との連携が大きく前進した一年となりました。山形県と協定を締結したことで、東北6県すべてと協力体制が整いました。また、阪神・淡路大震災から30年を迎えた兵庫県、能登で2年間支援を継続してきた石川県とも新たに協定を締結しました。

さらに、市町村側から協定締結の打診をいただく動きも広がり、都城市、荒尾市、熊本市と協定を締結しました。九州豪雨支援で連携した熊本市・大西市長のご紹介を受け、2026年1月には全国市長会と協定を締結。これにより、全国の市長の皆様と災害時の車両支援に関する情報共有が可能となりました。

また、協定締結自治体への報告会の実施や、都道府県主催の市町村担当者会議での事例紹介（8回）を通じ、自治体との実務的な連携も着実に深まりました。



石川県との締結式の様子



全国市長会との締結式の様子



県主催の担当者会議での発表の様子



自治体向け報告会の様子

企業・団体とのアライアンスの基盤強化が進展

2025年はモビリティ・レジリエンスアライアンスのメンバーが2団体加わりました。既存メンバーも会員を務める自動車用品小売業協会（APARA）様と九州豪雨支援で連携したJU鹿児島様です。今年は、連携する企業団体様との関わりが深まった年でありました。自販連携のブロック会議での事例共有や、JU中販連携の全国会合への参加を通じて、連携企業・団体との実務的な意見交換や交流を重ねました。これにより、新たな関係構築が進み、具体的な連携について理解が深まり、好事例の共有が広がりました。

普段から顔の見える関係を築くことが、災害時の迅速かつ質の高い対応につながります。アライアンスは、単なる協力関係にとどまらず、実効性を高める連携基盤へと着実に発展しています。



APARA様との締結式の様子



自販連関東ブロック会議での取組紹介の様子

モビリティ・レジリエンス事業部 西村 皓之

8月の九州豪雨から支援に駆け回る毎日で、1年があっという間でした。現場で痛感したのは、地方にとって車がいかに大切な「生活の足」であるかということ。生活基盤を失った方々の再建を支え、万への備えも一緒に進めていきたいです。初めてのことばかりでしたが、「ありがとう」という言葉の重みを心に刻んだ1年でした。この温かい気持ちを原動力に、これからも一人ひとりの暮らしに寄り添う支援を続けていきます。



防災担当大臣と面会。制度化に向けて邁進。

私たちは、災害時の車の問題に誰よりも向き合ってきました。2025年は、向き合ってきた課題を制度として解決するため、国への働きかけを本格化した1年でもありました。

そのひとつとして、坂井学防災担当大臣（当時）への表敬訪問が実現しました。大規模災害に備えるには、迅速に車両を確保できる仕組みと、それを支える制度設計および財源整備が不可欠であることを提言しました。

また、政党主催のNPO懇談会においても同様の提言を行い、災害時の車両支援の重要性について共有しました。

今後、防災庁の設置をはじめ国の防災体制は大きく変化していきます。その中で、災害時の車両確保を公的な仕組みとして位置づけられるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。



坂井大臣へ表敬訪問



政党主催NPO懇談会の様子

今年も活躍「災害対応人材BANK」148名（35都道府県）

迅速な災害対応には、車両だけでなく、それを運営する人材の確保が不可欠です。全国どこでも支援体制を構築できるよう、2023年に登録制度「災害対応人材BANK」を開始し、2025年末時点で登録者は148名（35都道府県）となりました。

九州豪雨支援では、登録者が熊本市拠点の現地スタッフとして運営を担い、千葉県在住の登録者は現地入りして拠点運営および車両搬送に従事しました。

また、昨年宮崎の支援拠点で活動した登録者は、宮崎支部スタッフとして正式に加わりました。

今後は制度の拡充とともに登録者へのフォロー体制を強化し、車両支援を支える人材基盤として発展させていきます。



熊本市拠点で活躍中の北坂さん



宮崎支部開所式で挨拶するワタナベさん

被災地の臨時拠点で活動したメンバーの声

8月に発生した豪雨災害で「何かできることはないのか」そう思っていたとき、今回の支援を知り、携わらせていただくことができました。

「家も車も被災し何から手をつけてよいのか分からない」そのような方々に車の無償貸出というかたちで支援をさせていただきました。車両不足もあり思うように支援を届けることが出来ず、歯痒く悔しい思いもしましたが、それでも「ありがとう」というお言葉を頂くたび、利用された方々の喜ばれる姿を見るたびに、私自身が力を頂いているような感覚でした。

全国で災害が発生する中、このような支援は非常に重要であると感じます。支援の輪が広がっていくことを願います。



鹿児島霧島拠点 徳田 達也さん

車をシェアして支え合う仕組みを地域につくる

コミュニティ・カーシェアリング

ひとつの実践地域から次の地域へ。全国でコミュニティ・カーシェアリングが広がり、持続する取組を実践。

① 豊田市における新たなカーシェア会の設立

愛知県豊田市では、市との普及促進協定に基づき、地域主体の取り組みが力強く前進しました。2025年は、先行事例である水源さくらカーシェア会に続く形で、平山自治区・平和町自治区において「平山自治区・平和町自治区カーシェア会（通称：スマイル）」が新たに設立されました。同地区の住民は、2024年に開催されたシンポジウムを通じて理解を深めるだけでなく、自ら学び合いや話し合いを重ねて具体的な運営体制を構築してきました。先行地域の実践が次の地域へと広がっていき、好事例が生まれました。

② 石巻市外へサポート強化とアプリのリニューアル

石巻市内カーシェア会の体制自律化が進んだことを受け、「石巻市外」の地域サポートにこれまで以上に注力しました。具体的には、各地域へ改めて詳細なヒアリングをオンラインで実施し、それぞれの活動状況や課題を整理し、必要な支援を行いました。また、各カーシェア会にご利用いただいているアプリ「まきたろう」をより使いやすくリニューアルすることで活動を各会が管理しやすいような環境を整えました。直接訪問が難しい遠方でも、インターネットを活用することで、より質の高い支援を行うための環境づくりを模索し、前進させた1年となりました。

③ 多角的な情報発信による魅力の周知と広報

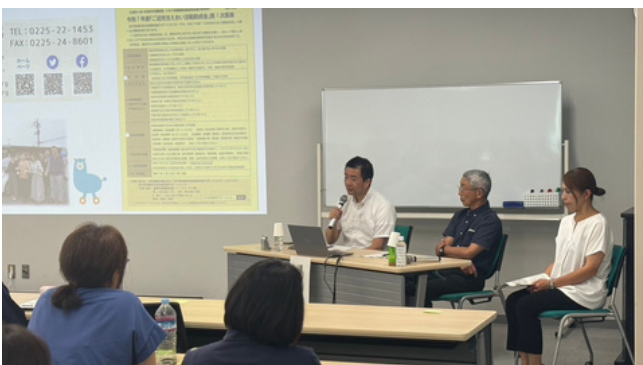
CCSの仕組みをより広く社会へ還元するため、実践地域の言葉で経験を共有する機会を積極的に設けました。2025年の実績として、講演会を7件、視察受入れを6件、事例紹介の対応を7件実施しました。事例紹介では福島県相馬市や石川県七尾市など多地域で発信を行い、様々な地域が新たな挑戦を始めるための具体的なヒントを提供しました。また、CCSの日常を紹介したショート動画の発信やオンライン視察プログラム（詳細後述）といった新しい手法も取り入れ、広くCCSの魅力を伝えると同時に、全国からの関心に応えられる体制づくりに努めました。




コミュニティ・カーシェアリング グループ数



アプリのレクチャーの様子



事例紹介の様子（岩手県生活支援体制整備事業講演会で代表理事の吉澤と猿沢カーシェア会が登壇）


 コミュニティ・カーシェアリング
 白紙
 ミツ股カーシェア会・毎週無料
 お買い物ツアー



さえさう地域をつくる
 楽しいカーシェアリング


コミュニティ・カーシェアリングのショート動画をご覧いただけます。
 下記QRコードよりアクセスの上、是非ご覧ください。



オンライン視察で、 コミュニティ・カーシェアリングをより多くの地域へ

コミュニティ・カーシェアリングに関心を寄せる自治体や社会福祉協議会、地縁団体などに向けて、導入検討のきっかけとなる『現地視察』を受け入れています。2025年は、新たに『オンライン視察』にもチャレンジしました。従来は石巻での現地視察が中心でしたが、事例紹介と質疑応答を一部オンライン化することで、石巻市以外の地域の事例も視察できる内容へリニューアルしました。これにより、移動の負担を減らし、より簡単にコミュニティ・カーシェアリングを知ることができるようになりました。参加者からは「具体的なイメージが持てた」「近隣地域の事例が参考になった」といった声をいただいています。現在は宮城県内のほか、岩手県一関市、石川県能登町、愛知県豊田市の事例もご紹介可能です。ぜひご参加ください。



オンライン視察の様子

また、講演や研修については内閣府と総務省の制度を活用することで、費用負担が少なく導入に向けた検討を進めることができます。詳しくは下記のQRコードよりご確認ください。

【視察・講演会】

コミュニティ・カーシェアリングをより深くご理解いただくために視察プログラムをご用意しています。



■ 総務省 地域力創造アドバイザー

地域の活性化に関する専門的な知識や経験を有する専門家が、地域の課題解決をサポートします。



■ 内閣府 地域活性化伝道師

地域の活性化に関する優れた知見や取り組みを有する方々が、その経験や知識を広く共有し、全国の地域づくりに役立てる活動を行っています。



JAF・警察署と連携し、ボランティアドライバーの安全を守る

地域でコミュニティ・カーシェアリングを支えるボランティアドライバーが安全に活動できるように、安全運転講習会を開催しました。2025年も、JAF宮城支部様、石巻警察署様のご協力をいただきながら、安全運転講習会を実施しました。

講習会では、交通ルールの再確認や日常の運転で注意すべきポイントについての講話に加え、実車を使った講習を通じて、安全運転をあらためて見直す機会を設けました。日頃の運転を振り返り、ボランティアドライバーとして安心して活動を続けていくための意識を高める内容となりました。

ボランティアドライバーが安心して活動を続けられることは、コミュニティ・カーシェアリングにとって欠かせない基盤です。今後も関係機関の皆さまと連携しながら、安全に配慮した取り組みを重ね、地域の中で支え合いが続いていくよう取り組んでいきます。



コミュニティ・サポート事業部 山下 知晃

オンライン視察という新たな取り組みを通して、カーシェア会の皆さんが、コミュニティ・カーシェアリングの良さや活動の工夫を自らの言葉で伝えてくださる場面がありました。講演会やシンポジウムでもカーシェア会が登壇し、取り組みの背景や想いを共有していただきました。こうした機会を通じて、興味関心のある方々に少しずつ伝わっていく可能性を感じています。今後もカーシェア会の皆さんとともに、その良さを多くの方に伝えていきたいと思ひます。



支え合い、語り合うカーシェア会の交流の輪

地域同士がつながり、学び合う機会として、石巻市内のカーシェア会が集まる「大おちゃっこ会」と、全国のカーシェア会がつながる「オンライン交流会」を実施しました。

8月に開催した「大おちゃっこ会」では、カーシェア会をご支援いただいている企業の皆さまにもご参加いただきました。生活支援コーディネーターの方より「ボランティア」や「ささえあい」をテーマにお話しいただいた後、日頃の活動の悩みや工夫について意見交換を行いました。それぞれのカーシェア会の枠を越えて語り合う中で、地域の支え合いの大切さを改めて実感する時間となりました。1月に実施した「オンライン交流会」には、全国12地域のカーシェア会が参加しました。各地の取り組みや地域特性を生かした活動事例が紹介され、全国の仲間と経験や工夫を共有する機会となりました。これらの取り組みを通じてカーシェア会同士のつながりは着実に広がり、地域内外で支え合いと学び合いの関係がより深まっています。



地域の活動を支えるスポンサーの皆さま

コミュニティ・カーシェアリングの取り組みは、カーシェア会の活動だけでなく、活動の趣旨に賛同し、支えてくださるスポンサーの皆さまのご協力によって成り立っています。地元の整備工場やスーパー、IT企業といった皆さまが、それぞれの地域のスポンサーとして活動を支えてくださっています。

- ・(株)ウジエスーパー
- ・(株)NTTデータ・ウィズ
- ・(株)M・K・G
- ・(株)協豊製作所
- ・(株)東部環境
- ・東北電子工業(株)
- ・トヨタすまいるライブ(株)
- ・東日本自動車(株)
- ・マッハコーヒー
- ・(株)丸本組
- ・ミシン工房高橋
- ・宮城エキスプレス(株)
- ・みやこ浄土ヶ浜ライオンズクラブ
- ・(株)メイフ
- ・(株)友善商事



活動に参加している方の声

歳を重ねてから思ったのが「ボランティアもいいもんだなあ」って
石巻市 ミツ股カーシェア会



いくつになっても外に出られることが本当に嬉しい！
登米市 松の実フレンド

活動を長く続けるためには皆で協力していくことが大事
豊田市 水源カーシェアさくら会



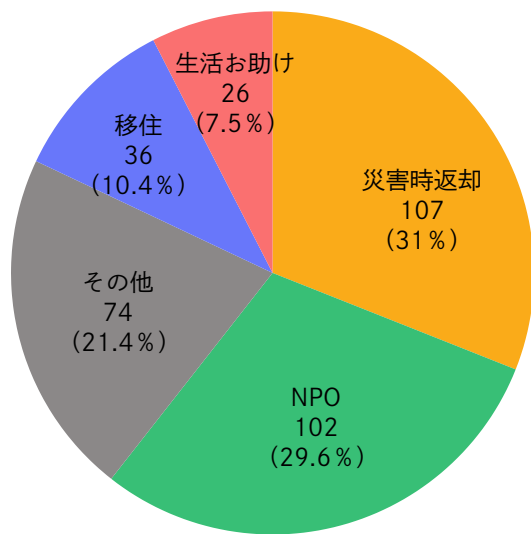
寄付車を貸し出すことで、人と地域を元気にする

ソーシャル・カーサポート

災害時も平時も。「動ける足」を必要な人へ、全国に届ける運用基盤を整えた1年

- 災害時を見据え平時の貸出を推進
災害時返却カーリースの普及を通じて災害時の備えを拡充し、平時から使っていただく貸出しを増やすことで支部の持続性を高めることができた
- 全国の支部で石巻モデルを展開
支部の採用、育成体制を強化し、石巻モデルを全国で実施できる体制に近づいた。

2025年貸出実績 貸出件数 計 **345** 件



ソーシャル・カーサポート事業が行う支援型リースメニュー



NPO

復興・復興支援や子ども支援、まちづくり、福祉活動など、多様な非営利活動の「活動車不足」を補う



生活お助け

自治体の自立支援期間と連携して、就職活動や就労継続に必要な移動を確保し、生活再建の一手を支える



移住

地域おこし協力隊などの都会から地方への移住者が、移住後に直面しがちな「車問題」を解決し、活動の立ち上がりを支援する



災害時返却

平時は安く車を活用し、災害発生時には10日にご返却いただく、災害に備えるカーリース。被災地の車不足を解消する



その他

被災地での無料貸出し後に車を必要な方や協会の活動を支えるスポンサー型のカーリースなど、被災された方や協会の応援につながる

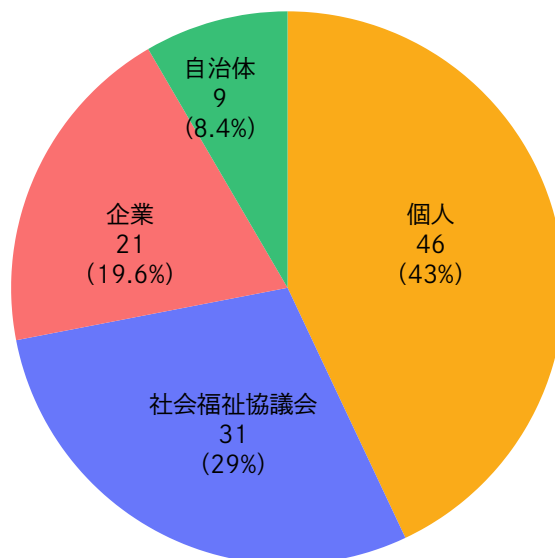
普段は便利に。いざという時に被災された方・被災自治体・被災社協を支える災害時返却カーリース

属性ごとの災害時返却カーリース導入数

熊本県・鹿児島県の豪雨災害では、浸水や土砂災害により公共交通や道路網が影響を受け、「移動手段の確保」が支援の成否を左右しました。災害時返却カーリースは、必要な車両を必要な期間だけ柔軟に利用でき、活動の区切りで速やかに返却できる仕組みです。現場が迷わず動けるよう、手続き・連絡・安全確認を整えながら、自治体職員や支援団体の活動を下支えしました。

2024年に62件だった総契約数は107件となり大幅に車の備えを拡充することができました。**災害時に29台の車両が返却され被災地に派遣**。2025年末には89台が全国で災害に備えて待機しています。

2026年は全国で200台の災害時返却カーリースの車が使われ、いざというときの災害で活用できる仕組みを構築してまいります。（実際の活用事例は次項にてご紹介します）



自治体・社協間で広がる車の助け合い ～災害時返却カーリース 自治体／社協プラン～

2024年の能登半島地震を受け、2025年に災害時返却カーリースの自治体・社会福祉協議会（災害VC）向けプランの普及活動を本格化させました。それにより、災害時返却カーリースの利用件数が大きく伸び、災害時に車が必要となる自治体・社協へ車両が行き届く仕組みが全国で少しずつ形になってきました。

災害発生時、自治体間・社協間での応援職員派遣（人）や資材（モノ）の応援は既に行われているのですが、現地で不足する「車」の支援連携は、事故のリスク・費用負担などの観点から積極的に行われていないのが実情です。災害時返却カーリースは車の支援連携を促す取り組みです。そういった価値が評価され、宮城県石巻市、静岡県富士市など拠点を設置している市でリースが導入されました。

今期、自治体での導入は9台、社協での導入は31台となりました。今夏の災害対応では、自治体からは3台・社協からは7台から実際に車両を返却いただき、返却された車を被災地の自治体・社協へ届けることができました。

実際にリース車をご返却いただいた自治体からは「災害対応に車は不可欠。自分たちが被災した場合も助けてもらえるので」と快くお車を被災地に送り出してくれました。被災時に車が必要とするのは、被災された方はもちろんですが、被災された方を支える行政、社協も同じです。平時から備えの必要性和、参画できる仕組みを整え、いざという時の備えの仕組みを強化していきます。（返却車両をご利用いただいたの声はP7にてご覧いただけます）

平時から車を必要としている方・団体に届ける



NPO
102件

2025年は、能登半島地震の復旧・復興支援に携わる団体への貸出が多く、私たちの車が現地の復旧活動を支えました。それ以外にも、子ども支援、まちづくり、福祉活動など多様な市民活動において、活動車両があるかどうかは支援の届き方そのものに直結します。必要な期間に必要な車を確保できる運用で、現場が本来の活動に集中できる環境づくりを支えました。



生活お助け
26件

就職活動や就労継続の局面では、「通えるかどうか」が次の一歩を決めてしまう場面があります。移動手段の確保により、応募や通勤の選択肢を広げ、働き続けることを支えました。車を「生活の道具」として届けることで、生活再建のプロセスを移動の面から後押ししています。自立相談支援や企業と連携しご自身で車を購入するための家計改善支援や、車の購入をする仕組みづくりを行っています。



移住
36件

都市部から地方に転居する地域おこし協力隊が全国で増加しています。交通空白のある地域が多く、隊員は着任後も「車がなくて生活も活動も始められない」という課題が起りがちです。移住窓口やコーディネーターと連携することで、着任直後から動ける足を確保し、地域活動や関係づくりを滞らないようにし、活動の不安を減らす支援を行いました。



支部サポート

2020年に佐賀に初めての支部を設立してから、栃木、静岡、秋田に支部を設置。支部はこれまで1名体制で運営していましたが、支部がある県で車の支援をしっかりと届けていくため、採用を強化し、各支部複数名で運営できる体制を整備しました。そのため新人スタッフが短期間に増加しましたが、育成にも力を入れ、現地でのリースや講演などの広報活動を支部で実施できるようになりました。

2026年1月に石川、宮崎にも支部を設立します。石巻で培ってきた車の支援モデルが各地で広がっていくように、本部ではサポート体制を整え、協会の活動が地域に根付いていけるようにしてまいります。

お車をご利用いただいた皆さまからの声

子ども達の送迎や校内居場所カフェへの移動に使っています！ありがとうございます！！

（NPOカーリースご利用 子ども支援NPO団体）

本当に暮らしを、強いては命を助けてもらったと思っています。感謝しかありません。本当にありがとうございました。ずっと忘れたいと思います。

生活お助けカーリースご利用者様 （50代 女性）

通勤や日々の生活で大切にに使わせていただきます。お貸しいただきありがとうございます！！

（移住リースご利用 地域おこし協力隊 20代 男性）

ソーシャル・カーサポート事業部 橋本 好絵

日本カーシェアリング協会のソーシャル・カーサポート事業部は、車を「支え合いの資源」と捉え、被災でお困りの方や生活困窮な方の移動手段を確保するための仕組みをつくる部署です。災害時返却カーリースの運用、自治体・社協との連携、車両管理や点検、相談対応、普及活動を通じて、必要な人へ安全に車を届けます。拠点ごとの在庫車両を管理し、いざという時にすぐ動ける体制を整えています。ユーザー様の声を活かし、常に体制改善を続けています。



「車の寄付」があたり前の社会に。

車の寄付

282台の想いが、車を必要とする方のもとへ 「車の寄付」を通じた支え合いが広がった1年

2025年は、個人・法人の方々から、160台の活用寄付、122台のリサイクル寄付、合計282台もの車の寄付が寄せられました。8月に発生した九州豪雨をはじめ、全国で豪雨災害が多発し、支援車両が甚大に不足する事態に直面しました。その状況を打開するため、9月4日から12月25日にかけて、「車の寄付で被災地応援プロジェクト」をスタート。協会からの呼びかけやテレビ・新聞（メディア掲載計18社）をご覧いただいた、自動車販売会社さま、多くの法人さま、個人の皆さまが協力に応じてくださり、本プロジェクトだけで、138台の活用寄付、59台のリサイクル寄付、計197台の車が寄付されました。

また、7月15日には、協会設立14年を機に「クルマ寄付パートナー」を新設。「支援が必要な全ての方へクルマを届ける仕組みを築く」ために、多くの企業・団体の皆様にご参画いただきました。

私たちが取り組む支援活動には、1台でも多くの「車」と、その車の維持費や支援拠点の設置のための運営費など、多くの資金も必要です。

被災地などで誰かの足として活躍する「活用寄付」、車の価値が支援を支える活動資金へ変わる「リサイクル寄付」、どちらも大切なおご支援であり、災害が増え続けるなか、ここまで活動を続けることができたのは、みなさまのご支援があったからだと感じております。寄付者の皆様、私たちの取り組みを応援して下さった皆様に心より感謝申し上げます。

多くの人々に力を与えて下さった一つ一つの想いを大切に、これからも支援の輪を広げてまいります。

寄付のかたちは2つ、どちらも社会の力になります

協会は、以下の寄付を通年で募集しております。

活用寄付

災害時の車の無償貸出、生活困窮者向けの低額リース、地域の助け合い活動など、現場で車を活用する寄付。

リサイクル寄付

車種・状態を問わず、どんな状態の車でも寄付できます！不要になった車が支援を支える活動資金に変わります

どちらも、大切なご支援です。

お車を買替え予定の方、手放す予定の方、ずっと動かさずに車庫に眠っているお車をお持ちの方、私たちにそのお車を託していただけませんか？

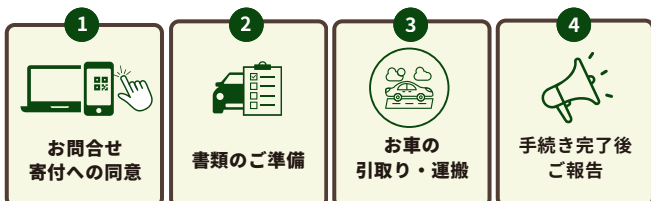
お問い合わせ：050-5482-3178

※平日9:00-18:00で受付



寄付の詳細はこちら

ご寄付の流れ



活用寄付の実績

1年間の寄付台数

160 台

(内) 個人からの寄付

(内) 法人からの寄付

71 台

89 台

想いをまとめた「車の寄付図鑑」完成！

年間では160台、協会設立からは累計1,673台の寄付が集まりました。現在は約630台の寄付車を支援の現場で活用しています。寄付いただいた車は、被災に車を失った方や経済的な理由により車を確保できない方などに向け、通院や買い物、通勤など、日常の移動を支える“足”として、多くの現場で大活躍しました。

九州の豪雨災害が発生する前にも、「これから起こり得る災害の備えに」「困っている誰かの支えに」と多くの企業・団体の皆様、個人の皆様がお車を私たちに託してくださいました。これまでの災害支援を通じ、私たちの活動を知っていただいた方から「支援の恩返しに」「あのときはタイミングが合わなかったけど、今なら力になれます」と心強いお言葉とともにご寄付をいただくことが増えてきています。

本年は、これまでご寄付いただいた1,673台分の皆様の想いをまとめた「車の寄付図鑑」を作成しました。この図鑑は、実際に寄付車を利用される方々にお見せし、寄付者さんの1台1台に込められた想いを伝えるために作りました。車の寄付を通じた支えあいの輪が着実に広がり、これまで積み重ねてきた活動が実を結び始めた、そんな1年となりました。



9cmの厚さの「車の寄付図鑑」→

活用寄付の条件

- 車検が6ヶ月以上残っている
- 車齢が15年以下 / 走行距離が15万*以下
- 安全・快適に走行が可能
- ※オイル漏れ、エンジン・足回りの不調、エアコン不調、タバコや動物の匂い等
- 車の使途や廃車のタイミングを協会に一任いただけること

寄付者さんの声

「免許返納のきっかけをくれた、車の寄付」



トヨタ プレミオをご寄付いただいた神奈川県M様より

年長的にも、どこかで区切りをつけなければと思っていた時に、「車を寄付できる」ということを知りました。車はずっと好きで、たくさんの思い出が詰まっています。だからこそ、誰かの役に立つ形で手放せるのは本当にうれしいです。車の寄付という選択肢があったからこそ、免許返納の踏み切りができました。こうした取り組みが広がれば、同じように車を大切にしてきた人たちが、前向きに免許を手放すきっかけになると思います。



Mさんの生の声を動画でご覧いただけます。左記QRコードよりアクセスの上、是非ご覧ください。

リサイクル寄付の実績

1年間の寄付台数

 **122** 件

(内) 個人からの寄付

 **98** 台

(内) 法人からの寄付

 **24** 台

2025年は、2024年12月1日~2025年3月31日にかけて実施した「廃車で被災地応援プロジェクト」による寄付集めからスタート。期間内で64台のご寄付をいただき、計16件ものメディア掲載がされました。

その後、災害時の報道等も含め、多くの方に知っていただき、年間を通じて122台、協会設立からは599台ものご寄付が集まりました。「車検切れ」「動かなくなった車」「事故車」など、様々な状態のお車を寄付という形で協会に託していただきました。

「リサイクル寄付」とは、どんな状態の車でも、エンジン部分の部品やボディの鉄材などを再資源化、もしくは中古車として市場に流通するなかで得られる廃車益を協会の活動資金に変える仕組みです。この仕組みを知った多くの皆さまから「ただ廃車にするのではなく、誰かの役に立つ形で手放したい」などの想いの詰まったお車をご寄付いただきました。

不要な車が社会の支えになる仕組み

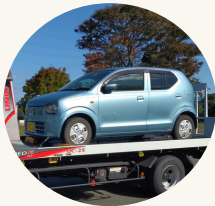


寄付者さんの声

「どんな形であれ、自分の車が少しでも被災地の役に立つのであればうれしい」

長年乗ってきた車を、ただ手放すのではなく、何か役立つ方法はないかと調べる中で日本カーシェアリング協会の取り組みを知りました。車が、困っている誰かの暮らしを支える形につながっていくと分かり、車の手放し方として納得できる形だと思い、寄付という選択をしました。今回の出来事を通じて、車を寄付するという選択肢が特別なものではなく、より身近なものとして伝わっていただいています。

マツダ キャロル、デミオの2台をご寄付いただいた秋田県K様より



車の寄付推進事業部 伊東 直人

車の寄付には、一台一台、それぞれの背景や想いがあります。「処分するつもりだった車が、誰かの役に立つなら」と託して下さる方もいれば、「また誰かの足として使ってほしい」と大切な車を送り出して下さる方もいます。私たちは、その想いを確かに支援の現場へ届けることを大切にしています。これからも、寄付してよかったと思っただけのよう、一つ一つ丁寧に向き合っていきます。



7月スタート！車の寄付を通じ、社会に貢献する「クルマ寄付パートナー」を新設！



2025年7月15日、協会の設立14年を機に、「支援が必要な全ての方へクルマを届ける仕組みを築く」ために「クルマの寄付パートナー」を創設しました。

クルマ寄付パートナーとは

所有する車両を、売却や廃車ではなく「寄付」を選択したり、取り扱い車両の一部を社会貢献の一環として「寄付」をするなど、車の寄付を通じて、社会をよくする企業・団体・自治体の皆さまです。

発足にあたり、スタートアップ時点で25社もの企業・団体にご登録いただきました。当日は発表に伴い、記者会見を実施し、登録団体のうち8社が記者会見にオンラインでご参加いただきました。支援の必要性や取り組みに対する期待の声が共有されました。



◆設立記者会見の様子は、以下QRコードよりご覧いただけます



年間では、44社の企業・団体にご登録し、多くの皆様に「クルマの寄付を通じた社会貢献の取り組み」にご賛同いただくことができました。

イメージキャラクター、オリジナルグッズも新たに展開

また、本取り組みでは、イメージキャラクターである、活用寄付担当の「はしルン」、リサイクル寄付担当の「まわルン」が新たに登場。



キャラクターが描かれたステッカーや、ピンバッジも展開しています。登録いただいた皆様には、グッズを贈呈させていただいております。

クルマ寄付パートナー募集中！ 企業・団体・自治体の皆さまへ

パートナーに登録いただける企業・団体様を引き続き募集中！

協会は、今後もパートナーとして、車の寄付を通じて社会をよくする企業・団体・自治体の皆さまを募集しております。

パートナーが増えることで、支援を必要とする方々に車を届ける仕組みが築かれます。

ご参画いただいた皆さまとともに、車の寄付を通じた社会貢献の取り組みをより、社会全体に広げていけるよう全力で取り組んでまいります。

お問合せ：050-5482-3178
担当：伊東・吉田



詳細とお申し込みはこちら

整備で繋がる学びの輪

石巻専修大学・秋田県立秋田技術専門校 ×
日本カーシェアリング協会

寄付された車が、学びの場へ。
学生の整備技術が支える「安全」と「安心」

石巻専修大学と協力して取り組む「学生整備プロジェクト」は、毎年恒例の取り組みとして定着しています。2025年、石巻エリアで活用している当協会の車両を対象に、タイヤ交換や安全点検を中心とした整備作業を、石巻専修大学の3・4年生が授業の一環として春と秋の2回実施しました。本プロジェクトで使用するカー用品は、趣旨にご賛同いただいたメーカーの皆さまからのご協賛により提供されています。また、秋田県では、2023年の秋田大雨災害における車両支援をきっかけに生まれたご縁から、秋田技術専門校と連携した取り組みを行いました。当協会に寄付された車両は、普段は実習車を使って学ぶ学生にとって、実際に公道を走っている車両の整備に取り組む場となりました。

◆協賛いただいた企業（五十音順 敬称略）◆
株式会社ウェッズ
三共油化工業株式会社
中央精機株式会社
中央精機東北株式会社
日本ミシュランタイヤ株式会社
パナソニックカーエレクトロニクス株式会社
PIAA株式会社
横浜ゴム株式会社
ルート産業株式会社



石巻専修大学での様子



秋田技術専門校での様子

クルマの支援、体制強化プロジェクト

石巻本部事務所を増築作業中！3月にお披露目予定

活動が広がり、常態化する災害に対応する中でスタッフも増え、現在の事務所は収容の限界を超える状況となっていました。2人掛けのテーブルに3人で座って業務を行うなど、物理的な制約が日常化していました。そうした中、日頃より支えてくださっている企業の方から背中を押していただき、「クルマの支援、体制強化プロジェクト」を立ち上げました。敷地内に施設を増設し、活動環境を整える計画です。カー用品メーカー各社様からの協賛、住野勇財団様からのご寄付をはじめ、多くの皆様のご支援により目標額を達成し、建設に着手しました。完成は3月下旬を予定しています。今後も挑戦を続けていくための基盤整備として、新たな環境のもと、より強固な支援体制を築いてまいります。

◆協賛いただいた企業・団体・個人（五十音順 敬称略）◆
石巻信用金庫 株式会社エーモン 大橋産業株式会社
呉工業株式会社 西條利市 三共油化工業株式会社
一般財団法人住野勇財団 東日本自動車株式会社
株式会社ボンフォーム ルート産業株式会社



ご支援いただいた皆さま



アイエス総合
アイオン
アイセイオート
愛知県自動車販売店協会
愛知県中古自動車販売商工組合・協会
愛知スズキ販売
ITDART
始良市
青森県
青森県中古自動車販売商工組合・協会
秋田県
秋田県中古自動車販売商工組合・協会
秋田県中小企業団体中央会
秋田県立秋田技術専門校
秋田港ロータリークラブ
あきた結いネット
アデル・カーズ
アドバンスクラブ
アルデバラン
五十嵐自動車整備工場
石上車輛
石川県

石川県軽自動車協会
石川県県民ボランティアセンター
石川県支部・石川県自動車販売店協会
石川県自動車販売店協会
石川中央三菱自動車販売
石川ダイハツ販売
石川トヨタ自動車
石川トヨペットカローラ
石川日産自動車販売
石川日野自動車
石川ヤナセ
いしのまきNPOセンター
石巻市
石巻信用金庫
石巻専修大学
石巻防災士協議会
石巻南ロータリークラブ
いすゞ自動車中部
伊豆の国市社会福祉協議会
イーサービス
伊万里ロータリークラブ
岩手県

岩手県中古自動車販売商工組合・協会
イワマワークス
INDIGO
ウェッズ
内灘町社会福祉協議会
宇土市
ウラタモータース
嬉野市
永浩建設
エース・オートリース
江口農園
愛媛県中古自動車販売商工組合・協会
MS&ADユニゾンスマイルクラブ
青梅市社会福祉協議会
大分県自動車販売店協会
大分トヨタ自動車
大分トヨペット
大阪府中古自動車販売商工組合・協会
岡山県
小城市
小城ロータリークラブ
オートバックスセブン

オートボディ菅原
オートリサイクルナカシマグループ
オートロンカーズ
おもやい
カイトン
会宝産業
魁文堂
鹿児島県
鹿児島県軽自動車協会
鹿児島県自動車販売店協会
鹿児島県中古自動車販売商工組合
鹿児島ロータリークラブ
金沢三菱自動車販売
上天草市
カーコレクションコバヤシ
カーセブン デジフィールド
カーレポ
カレント自動車
岐阜県中古自動車販売商工組合・協会
基山町
キャンパー
九州みやび観光

京都府中古自動車販売商工組合・協会
 霧島市
 草ヶ谷燃料
 久保田オートパーツ
 熊本県
 熊本県軽自動車協会
 熊本県自動車販売店協会
 熊本県中古自動車販売商工組合・協会
 くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD)
 熊本市
 熊本ダイハツ販売
 熊本トヨタ自動車
 熊本トヨペット
 熊本三菱自動車販売
 ケイエムクリーン
 警察庁
 KenichiMasakiMediaLab. (東京学芸大学)
 高知県中古自動車販売商工組合・協会
 国土交通省
 災害NGO結
 西條建築
 西條設計
 埼玉県中古自動車販売商工組合・協会
 佐賀県小城市生活自立支援センター
 佐賀県自動車販売店協会
 佐賀県社会福祉協議会
 佐賀玉屋
 佐賀トヨタ自動車
 佐藤自動車整備工場
 猿沢カーシェア会
 三共油化工業
 三野自動車商会
 塩釜市
 志賀町社会福祉協議会
 静岡県中古自動車販売商工組合・協会
 JVCケンウッド
 ジャパンプラットフォーム
 JAMMIN
 スエヒロ総業
 珠洲市
 珠洲市社会福祉協議会
 スズキ自販熊本
 スズキ自販北陸
 スズキ中国販売
 スターライト工業
 住野勇財団
 セイエン

仙台市
 仙台西ロータリークラブ
 仙台南ロータリークラブ
 全国軽自動車協会連合会 (全軽自協)
 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)
 全国市長会
 全国社会福祉協議会
 全日本ロータス同友会宮城県支部
 ソフト99オートサービス
 高岡市社会福祉協議会
 武雄温泉
 タグダオート
 玉名市
 玉東町
 大八商會 (ビッグエイト)
 地星社
 中央共同募金会
 中央精機
 中央精機東北
 TFサービス
 デタント
 東京海上日動火災保険
 東京都中古自動車販売商工組合・協会
 東北自動車共済
 東北電子工業
 東洋館
 東部環境
 東馬窯
 徳島県中古自動車販売商工組合・協会
 栃木県中古自動車販売商工組合・協会
 桐蔭学園 インターアクトクラブ
 富山県
 富山県中古自動車販売商工組合・協会
 トヨタカローラ大分
 トヨタカローラ長崎
 トヨタカローラ博多
 トヨタカローラ福岡
 トヨタ自動車
 トヨタレンタリース福岡
 豊橋ヤナセ
 内閣府
 長崎県自動車販売店協会
 長崎県中古自動車販売商工組合・協会
 長野県社会福祉協議会
 長野県中古自動車販売商工組合・協会
 七尾市
 ななお・なかのとDMO
 ナプロアース

奈良県中古自動車販売商工組合・協会
 新潟県中古自動車販売商工組合・協会
 西自動車商会
 日産プリンス金沢
 日本NPOセンター
 日本オートリサイクリング
 日本グッドイヤー
 日本財団
 日本自動車工業会 (JAMA)
 日本自動車販売協会連合会
 日本自動車連盟 (JAF)
 日本中古自動車販売協会連合会 (JUC中販連)
 日本ミシュランタイヤ
 ネットトヨタ石川
 ネットトヨタ大分
 ネットトヨタ北九州
 ネットトヨタ熊本
 ネットトヨタ西日本
 ネットトヨタ東九州
 ネットトヨタ福岡
 ネットトヨタ山形
 能登町
 延岡市
 橋本自動車
 花笑心行書士事務所
 ハンコックタイヤジャパン
 ハンディクラウン
 ひいらぎ会
 東伊豆町社会福祉協議会
 東日本自動車
 BIG UP石巻
 ビッグウェーブ
 氷見市社会福祉協議会
 兵庫県中古自動車販売商工組合・協会
 平間オート
 広島県中古自動車販売商工組合・協会
 ピー・エス・アイ・コーポレーション
 福井県中古自動車販売商工組合・協会
 福岡県
 福岡県自動車販売店協会
 福岡県中古自動車販売商工組合・協会
 福岡トヨタ自動車
 福岡トヨペット
 福島県
 福津市
 福津市未来共創センター キッカケラボ
 ふじかわコーポレーション
 藤沢自動車

富士市
 ブレイン
 へちまや群生舎
 豊永自動車工業
 防災関係人口ネットワーク
 北海道中古自動車販売商工組合・協会
 北陸スバル自動車
 北陸マツダ
 ホンダカーズ石川
 ホンダサロン石川
 ホンダトレーディング
 ホンダモビリティ中部
 ボンフォーム
 まあさんガレージ
 牧之原市
 マッハコーヒー
 松のまフレンド
 丸本組
 丸渡商店
 三重県中古自動車販売商工組合・協会
 三井住友海上火災保険
 みなとモーター
 みやき町
 みやき町社会福祉協議会
 宮城エキスプレス
 みやき熊本県人「火の国会」
 宮城県
 宮城県中古自動車販売商工組合・協会
 宮城三菱自動車販売
 宮城ヤンマー
 宮崎県自動車販売店協会
 宮崎県中古自動車販売商工組合・協会
 宮崎産業開発
 明和町社会福祉協議会
 メルベイ
 八代市
 山形県
 ユーエムシー内田産婦人科医院
 友善商事
 ユナイテッドトヨタ熊本
 ユートピア若宮
 横浜ゴム
 ヨシダ・アート
 ルート産業
 Ready For
 輪島市
 輪島市社会福祉協議会
 綿島康浩陶工房

※五十音順にてご紹介しています。

※個人の皆様については公表を控えていただいております。

※法人格を省略させていただいております。

※ご協力いただいた助成金、補助金はP18にご紹介しています。

アライアンス・プロジェクト参画企業・団体

●モビリティ・レジリエンス・アライアンス

加盟企業・団体一覧
 災害協定締結済みの自治体一覧



●クルマ寄付パートナー一覧

- CCSスポンサー企業・団体 P11にご紹介
- 学生整備プロジェクト協賛企業 P16にご紹介
- クルマの支援、体制強化プロジェクト協賛企業 P16にご紹介



ご支援のお願い

寄付車を使った助け合いを広げていくためには、皆様からのご支援が必要です。
 ピットクルー(仲間)として、私たちの活動を応援してください。

活動財源のご寄付

①マンスリーカーシェアサポーター (個人の方)

1日約30円～、毎月の寄付で協会の活動を継続的にご支援いただける仕組みです。
 決済方法はクレジットカード、口座振替からお選びいただけます。

②法人賛助会員

一口10万円からご支援いただけます。5口以上で法人ロゴをホームページに掲載させていただきます。
 ご支援いただける法人様には申込書をご送付致します。

③銀行口座からのご寄付

※払込用紙の送付も可能です。ご希望の場合はお手数をおかけしますが、石巻本部までご連絡ください。

- ゆうちょ銀行からのご送金
 口座記号：02220-9 口座番号：120559
- 他の金融機関からのご送金
 ゆうちょ銀行 二二九(二ニキュウ)支店 当座
 口座番号：0120559
 口座名義：一般社団法人日本カーシェアリング協会



会計報告

キャッシュ・フロー計算書 (2025年1月1日～2025年12月31日)

項目	金額
1 事業活動によるキャッシュ・フロー	
会費による収入	1,434,600
寄附金による収入 ①	40,091,587
補助金・助成金による収入 ②	59,806,272
コミュニティ・カーシェアリング事業による収入	6,165,160
カーリース事業による収入 ③	44,542,616
レンタカー事業による収入	10,968,453
保険代理店事業による収入	796,850
その他の収入	10,795,245
人件費の支払による支出 ④	△ 84,895,710
車両維持費の支払による支出 ⑤	△ 27,158,050
保険料の支払による支出 ⑥	△ 16,828,128
租税公課の支払による支出 ⑦	△ 14,136,001
旅費交通費等の支払による支出	△ 9,566,195
業務委託費の支払による支出	△ 3,968,894
地代家賃の支払による支出	△ 4,302,534
手数料の支払による支出	△ 3,691,227
通信運搬費の支払による支出	△ 3,753,377
消耗品費の支払による支出	△ 2,540,023
消費税等の支払による支出	△ 2,482,300
その他の支出	△ 6,710,376
小計	△ 5,432,032
法人税等の支払による支出	△ 295,400
事業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,727,432
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	
投資活動によるキャッシュ・フロー	0
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	
財務活動によるキャッシュ・フロー	0
4 現金及び現金同等物の増減額	△ 5,727,432
5 現金及び現金同等物の期首残高	51,257,747
6 現金及び現金同等物の期末残高	45,530,315

2024年は、能登半島地震支援への対応を大規模に行ったため、2025年は前年と比較すると収入総額および経費総額は減少しております。ただ、2023年以前の水準と比較すると事業規模は大きく拡大しており（経常収益ベースで令和5年度比233%）、事業規模としては成長した水準にあります。一方で、常態化する災害への対応を強化するためスタッフを10名増員したことにより人件費が増加し、全体の収支としては今期は大きなマイナスとなりました。ただしこれは、今後の活動を支えるための必要な投資と考えております。新たに加わったメンバーが活躍し、活動をさらに発展させることで、次年度以降の収支改善につなげてまいります。

- ①寄附金による収入
金銭寄付に加え、リサイクル会社様による車の再資源化による寄付(リサイクル寄付)による収益を含みます。前年比79%となりました。
- ②補助金・助成金による収入
民間助成金及び自治体等補助金を計上しております。前年比81%となりました。
- ③カーリース事業による収入
長期による有償貸出(カーリース)事業の売上です。前年比161%となりました。
- ④人件費の支払による支出
スタッフに支払った給料等が含まれます。前年比140%となりました。
- ⑤車両維持費の支払による支出
主に車両の点検・修理による経費を計上しております。前年比99%となりました。
- ⑥保険料の支払による支出
主に自動車保険料を含みます。前年比110%となりました。活用車両の台数は2024年よりも減少していますが、支援件数増に伴い事故件数が増加し、保険等級が下がり1台あたりの保険料も増額しております。
- ⑦租税公課の支払による支出
主に自動車税、自動車重量税、車両の名義変更に係る経費を含みます。前年比89%となりました。

助成金・補助金

宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金、宮城地域復興支援助成金(宮城県)地域おこし協力隊(石巻市)ノ災害時における連携と拠点設置の基礎を構築する事業((一財)トヨタ・モビリティ基金)ノ災害発生前後の初動期に関する支援活動助成、令和6年7月大雨被害に関する支援活動、令和7年8、9月の大雨・台風等被害に関する支援活動((公財)日本財団)ノボラサボ・令和6年能登半島地震、ボラサボ・令和7年8月9月大雨および竜巻災害((社福)中央共同募金会)ノ令和6年能登半島地震の被災者および支援団体に對する車両の無償貸出支援((特非)ジャパン・プラットフォーム)ノ静岡トヨタ自動車ハイブリッド基金ノ((公財)ふじのくに未来財団)ノ佐賀市生活困窮者自立支援機能強化事業補助金(佐賀市)ノ緊急配分積立資産((社福)宮城県共同募金会)ノプリヂストンBS Smile基金ノ((公社)日本フィランソロピー協会)ノTIS×日本NPOセンターノTechSoup協働事業助成プログラム((特非)日本NPOセンター)

委託

地域課題サポート(コミュニティ・カーシェアリング)事業、自治体SDGsモデル事業グリーンズローモビリティ等運用支援業務(石巻市)

募金

Yahoo!ネット募金/佐賀ふるさと納税/ソフトバンク「つながる募金」/メルカリ寄付/AMAZON 欲しいものリスト/買って応援便/OSUSO

寄付型助成

社会課題解決みやぎチャレンジプロジェクト
(社福)宮城県共同募金会)

当協会の財務諸表について

当協会の財務諸表はホームページにて公開しています。

下記URLまたはQRコードよりご覧ください。

<https://www.japan-csa.org/about/report.php>



協会概要

組織概要

名称 一般社団法人日本カーシェアリング協会
 設立 2011年7月15日（活動は2011年4月から）
 代表理事 吉澤 武彦
 理事 湯川 伸矢 増田 敬
 監事 竹中 徹
 所有車両 636台（2025年12月末時点）
 損害保険代理業委託保険会社 東京海上日動火災保険(株) / 三井住友海上火災保険(株)
 イーデザイン損害保険(株) / 東北自動車共済(協組)

受賞歴

2015年 国際交通安全学会賞 業績部門
 2017年 地域ITS活動 優秀事例
 2018年 復興庁「新しい東北」復興・創成顕彰
 2019年 第9回地域再生大賞 優秀賞
 2020年 第6回「エルトゥール号の恩返し 日本復興の光大賞20」特別賞
 2022年 第1回クルマ・社会・パートナーシップ大賞 自動車ユーザー連携賞
 2022年 第15回いしのまき大賞
 2022年 CSOフォーラム2022 ファイナリスト賞

自治体協定

2025年
 都城市（宮崎県）、山形県、荒尾市（熊本県）、兵庫県、熊本市（熊本県）、石川県と
 「災害時における被災者等の移動手段の確保に関する協定」締結
 2024年以前の締結協定自治体一覧（協定締結順）
 「包括連携協定」
 佐賀県、石巻市（宮城県）、栃木市（栃木県）
 「災害時における被災者等の移動手段の確保に関する協定」
 石巻市（宮城県）、岡山県、熊本県、宮城県、岩手県、福島県、栃木市（栃木県）、人吉市（熊本県）、
 栃木県、新潟県、青森県、富山県、延岡市（宮崎県）、福岡県、愛知県、秋田県、姫路市（兵庫県）
 「コミュニティ・カーシェアリングに関する協定」
 大津市（滋賀県）、豊田市（愛知県）

災害支援実績

2011年 東日本大震災（宮城県他）
 2014年 平成26年豪雪（埼玉県）
 2015年 関東・東北豪雨（宮城県他）
 2016年 熊本地震（熊本県）、台風10号（岩手県）
 2017年 九州北部豪雨（福岡県他）
 2018年 平成30年7月豪雨（岡山県他）
 2019年 令和元年8月豪雨（佐賀県）、台風15号（千葉県）、台風19号（宮城県他）
 2020年 令和2年7月豪雨（熊本県他）
 2021年 福島県沖地震（宮城県）、令和3年7月豪雨（静岡県）、令和3年8月豪雨（佐賀県他）
 2022年 福島・宮城沖地震（福島県他）、令和4年7月豪雨（宮城県）、令和4年8月豪雨（新潟県他）、
 台風15号（静岡県）
 2023年 能登半島沖地震（石川県）、台風2号（愛知県他）、九州北部豪雨（福岡県他）
 秋田豪雨（秋田県他）、台風13号（福島県他）
 2024年 能登半島地震、能登豪雨（石川県）、秋田山形豪雨（山形県他）、台風10号（宮崎県他）、
 宮崎大雨（宮崎県）
 2025年 大船渡大火事（岩手県大船渡市）、九州豪雨（熊本県他）、秋田豪雨（秋田県秋田市）、
 静岡県台風15号（静岡県牧之原市）、宮城豪雨（宮城県仙台市他）、
 台風22・23号（東京都八丈島）、青森県東方沖地震（青森県）

2025年メディア掲載実績

新聞掲載



120件

テレビ・ラジオ



92件

雑誌・広報紙など



5件

講演会



26件



SNSで活動中の様子を発信中！
フォローしてね！



Facebook



Instagram



X



YouTube



石巻発、寄付車でつくる
やさしい未来



日本カーシェアリング協会
Japan Car Sharing Association

石巻本部

〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り1-5-23
TEL 0225-22-1453
FAX 0225-24-8601
Mail info@japan-csa.org

佐賀支部

〒843-0233 佐賀県武雄市東川登町大字永野6766-1
小山路案内

静岡支部

〒421-3305 静岡県富士市岩淵751-1

石川支部

〒929-2121 石川県七尾市田鶴浜町八部3番地
健康福祉プラザ さつき苑内

日本カーシェアリング協会 オリジナル

マグネットステッカー

LINEスタンプ



栃木支部

〒329-4421 栃木県栃木市大平町伯仲1741
五十嵐自動車整備工場内

秋田支部

〒010-1403 秋田県秋田市上北手荒巻押切24-2
秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎内

宮崎支部

〒882-0804 宮崎県延岡市西階町1丁目2408-1
延岡市シルバー人材センター施設内

